



秋元家発祥の地・秋元荘

(千葉県君津市)

令和2年9月15日

須永 清 (館林文化史談会)



千葉県君津市とは？

(君津市ホームページより)

房総半島のほぼ中央部に位置し、北西部は東京湾に面しています。

この部分はかつて約4キロの海岸線でしたが、1960年代に埋め立てられ、現在は世界に誇る製鉄所(新日鐵住金)が操業しています。

市域は内陸部の東部、南部が広大で、面積は約319平方キロメートル、周囲は約118キロメートルに及びます。

北部の台地は木更津市と広く境を接し、この一角にかずさアカデミア・パークが建設されました。

東部は市原市、大多喜町、鴨川市と接する清澄山系となっています。

南部は三舟山、鹿野山、高岩山系となっており、富津市と接しています。

その間に小糸川・小櫃川の沖積地が広がり、肥沃な農耕地帯を形成しています。

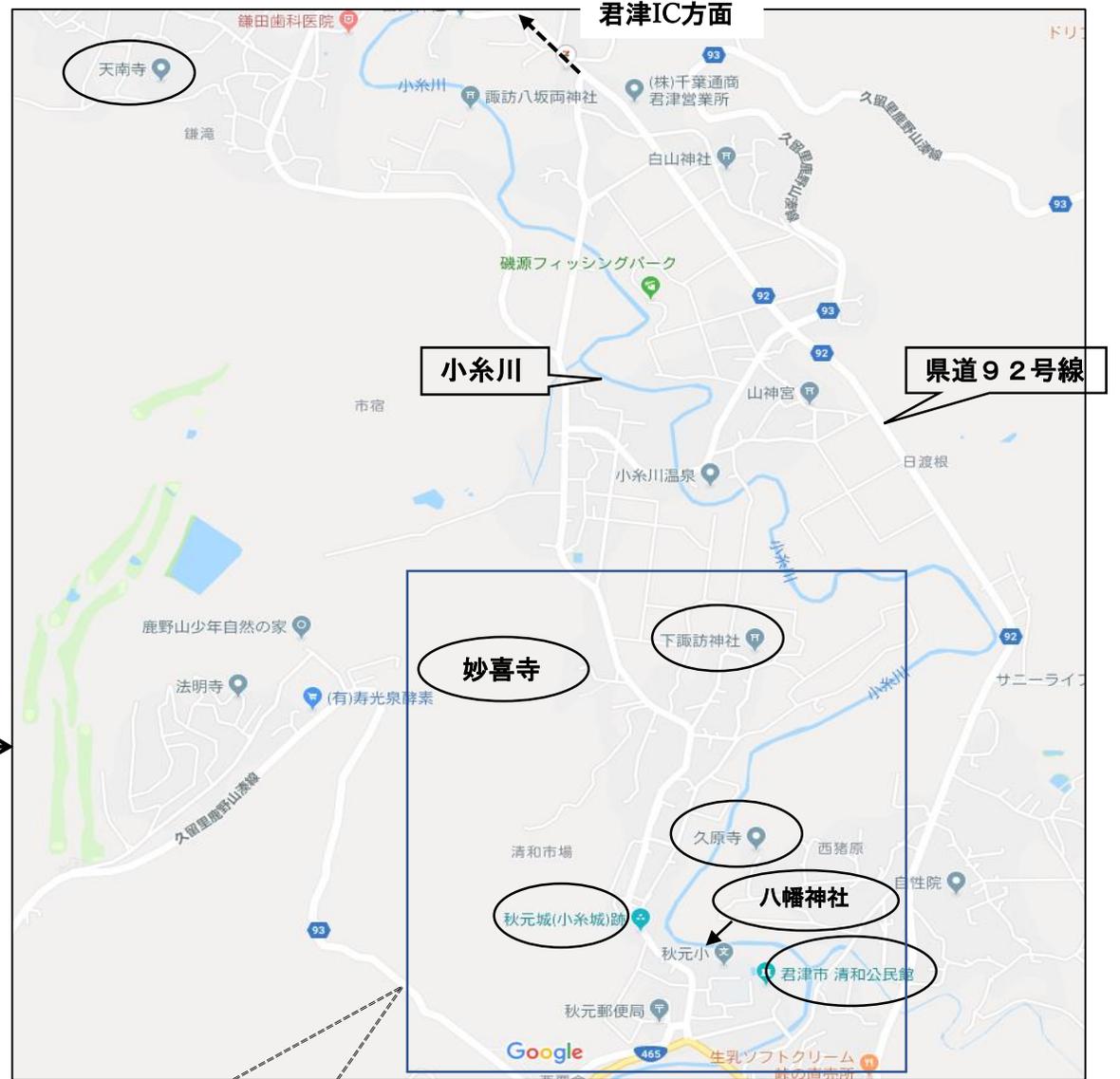
市街地は、西部の小糸川下流域に形成され、土地区画整理事業により整備された住宅地が続きます。

平成19年7月には館山道が全線開通し、東京から館山まで高速道路を利用できるようになりました。

上総国周淮郡（すえぐん）秋元荘 (現・千葉県君津市清和地区、小糸地区を 中心とした地域)



館林から高速使って約2時間半



手元資料①

ここが秋元荘です！



秋元荘について

・ 名前の由来

「秋元」の地名は、君津市清和市場の諏訪神社の由緒によれば、清和天皇の貞観元年（859）の秋に御即位の大嘗祭を行うため、同社の周辺に神田を作らせ、朝廷が勅使を下し、稲穂を選んで天皇に差し上げたところ、実にみごとな稲穂であると喜び、「これこそ秋の元なり」と宣ったことから「秋元庄」の地名が起き、同神社を「秋元惣社」と呼ぶようになったと伝えられている。

（ミュージアム都留・「日光東照宮と秋元三代」図録より）

・ 小糸城（秋元城）築城伝説・・・**狐の伝説**

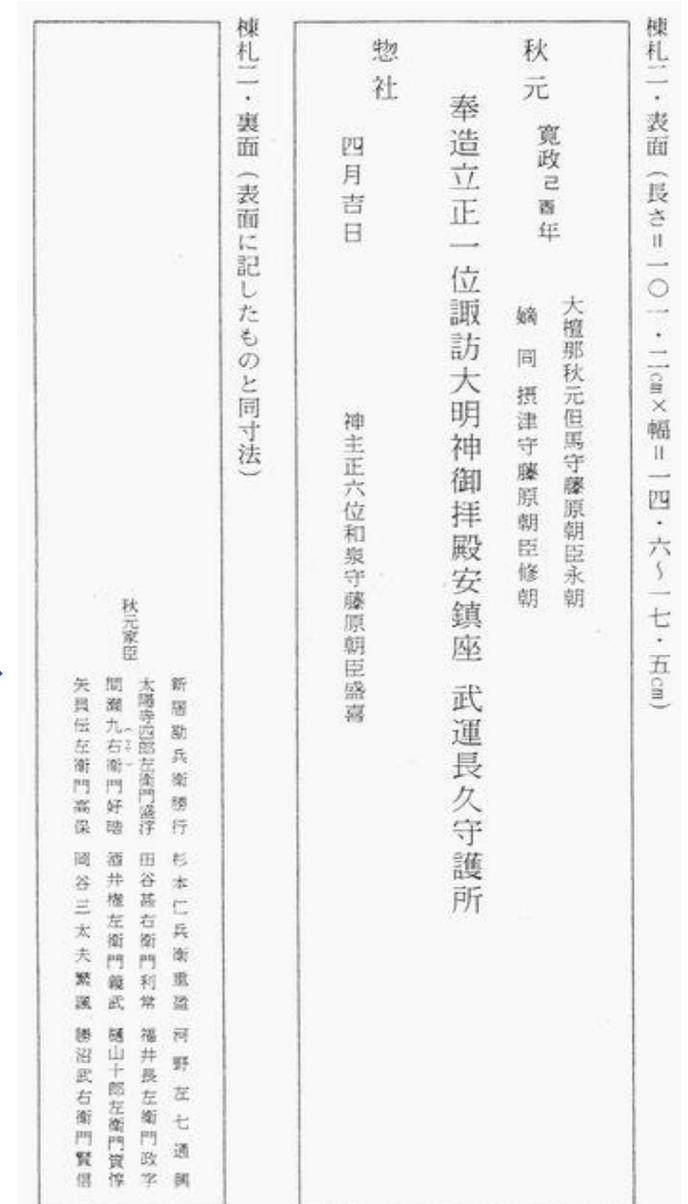
「一城を築かんと欲して心を苦しむといへとも其場所定まらず
爰に不思議なるかな白狐告て糸を引糸の止る所城地に吉と言う
狐糸の地名是より出る」

（『秋元庄狐糸説』（君津市の個人所蔵）『戦国山城フォーラム～秋元城と秋元氏をめぐる町～』より）

秋元氏と秋元荘

秋元氏の足跡

- ・ 諏訪神社（秋元惣社）棟札に残る秋元氏
天文二十三年（1554）
秋元朝臣義政・同刑部少輔政次
弘治二年（1556）
藤原朝臣秋元刑部少輔政次
寛政元年（1789）
秋元但馬守藤原朝臣永朝・撰津守藤原朝臣修朝 →
- ・ 高野山西門院所蔵『上総国諸侯大夫過去帳』
小糸城主 秋元家
天正十五年（1587）豊前入道藤原朝臣正次
天正十七年（1589）里見豊前守源朝臣義次他
- ・ 天南寺の位牌
秋元義豊・義則、秋元兼義・義政、秋元喬知、
秋元喬房

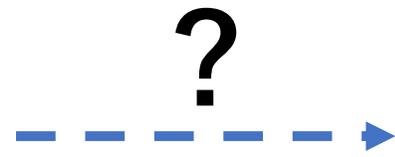


秋元氏と秋元荘

宇都宮氏の末裔
→なぜ「宇都宮氏」？

秋元荘を中心とする
安房・上総には秋元
氏活動の痕跡が多い

寛政重修諸家譜の家系図には
景朝以前の記載がない



文久3年（1863）
には志朝名代の家
臣が訪問し、石碑
を建立

菩提寺が秋元荘に2つ
天南寺と妙喜寺
（共に曹洞宗）

秋元荘から深谷に移
り、深谷上杉氏の家
臣となる

天南寺には喬知・喬房の
位牌があり、文化5年
（1808）に秋元義政夫妻
の五輪塔が再建されてい
る

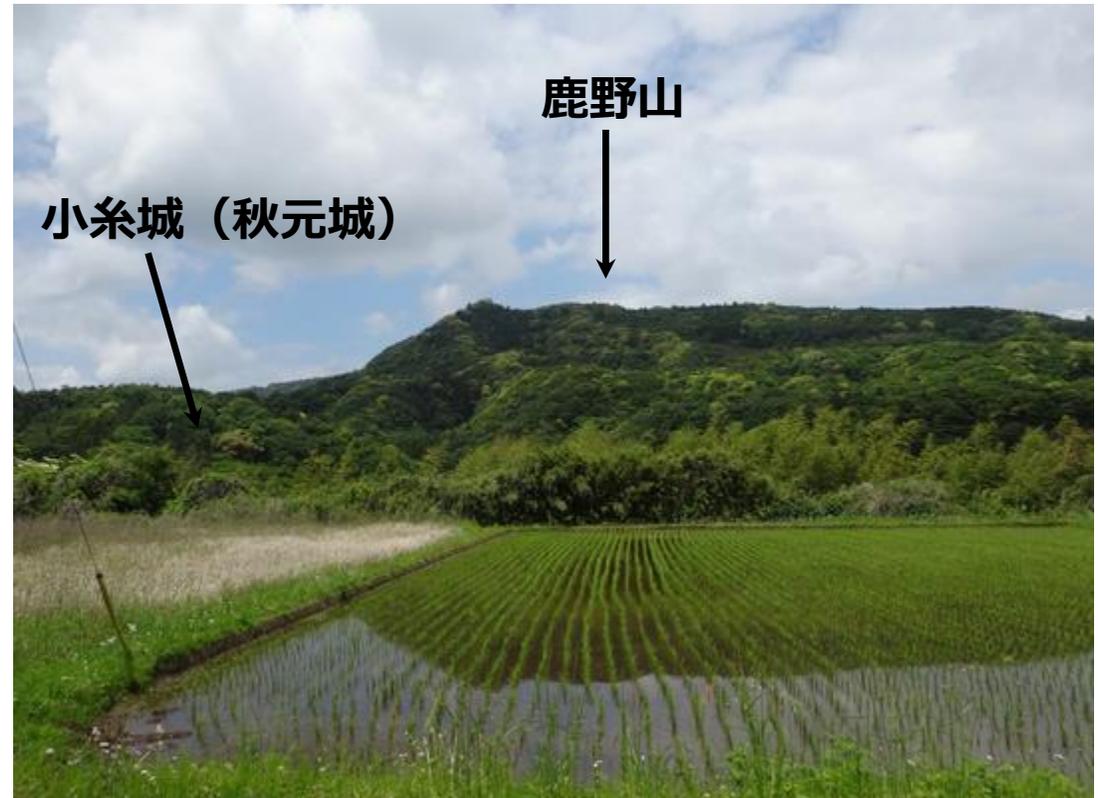
大名の秋元氏は秋元荘を秋元家
発祥の地としており、それに相
応しい歴史が残っている

訪問地① 久原寺（くばらじ）

真言宗智山派・関東八十八ヶ所霊場であり、秋元義正祈願所であり、小糸城の東北に当たることから鬼門除けとされたと伝わる。



(当日は法事があり、詳しい見学はできませんでした。)



余話 千葉県南部（安房国・上総国）には真言宗智山派寺院が多い

例えば、観音霊場となっているお寺の数では、

安房国三十四ヶ所観音霊場	智山派：22	豊山派：0
新上総国三十三観音霊場	智山派：18	豊山派：6
下総国三十三ヶ所観音霊場	智山派：0	豊山派：21

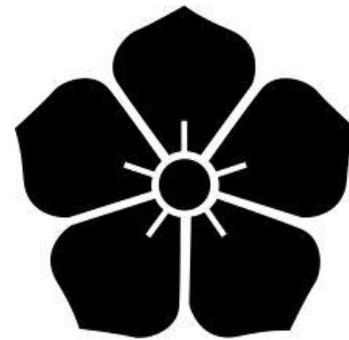
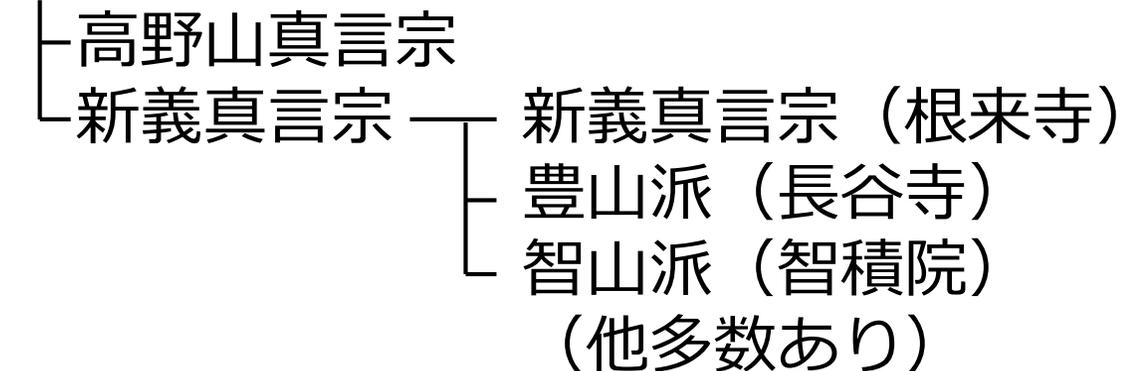
※観音霊場に関して言えば、千葉県では県南に智山派、県北に豊山派の寺院が多い。

真言宗智山派とは、

総本山 智積院（京都）・・・東山七条・祥雲寺跡。国宝「桜楓図」

大本山 成田山新勝寺（千葉）、川崎大師（神奈川）、高尾山薬王院（東京）

真言宗



智山派・宗紋（桔梗）

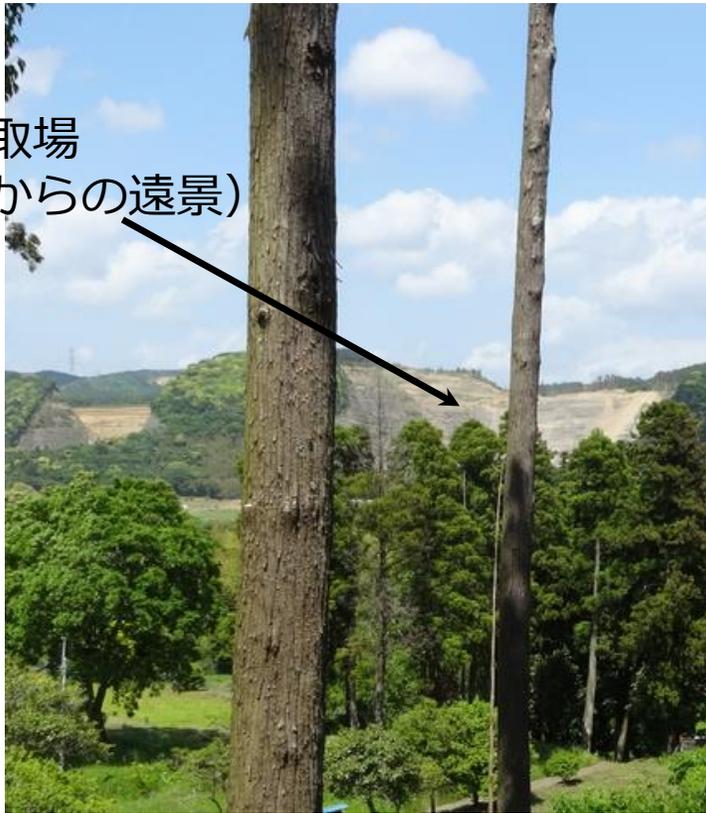


豊山派・宗紋（輪違）

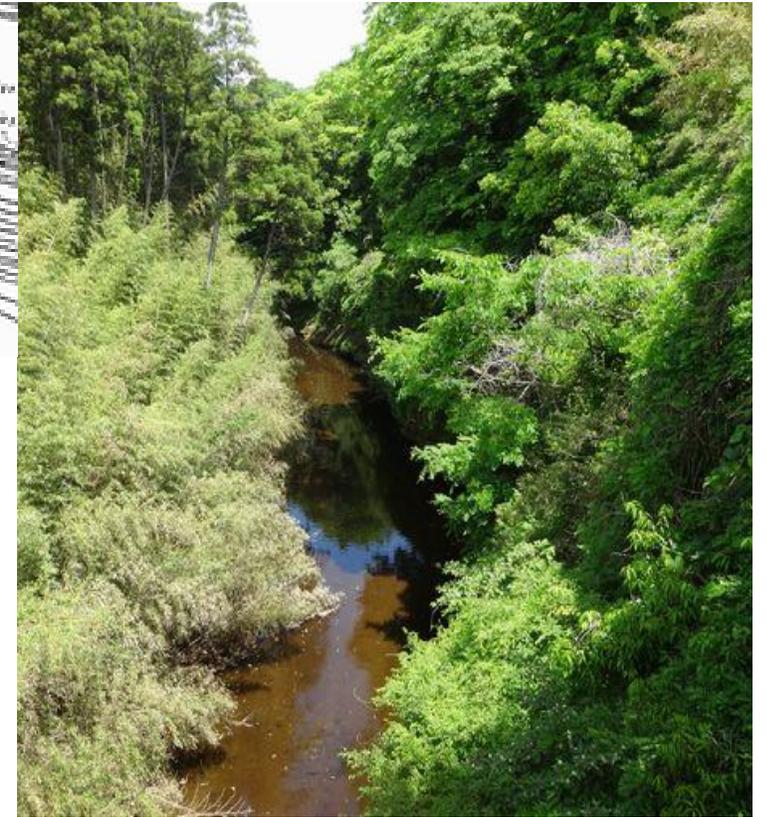
訪問地② 小糸川と清和公民館

東京湾の埋め立て地造成で君津の山砂が大活躍！
小糸川の地図も等高線が混みあっており、急峻な地形であることを示す
これも侵食されやすい砂層や泥岩層が多いことが要因と思われる。

山砂の採取場
(妙喜寺からの遠景)

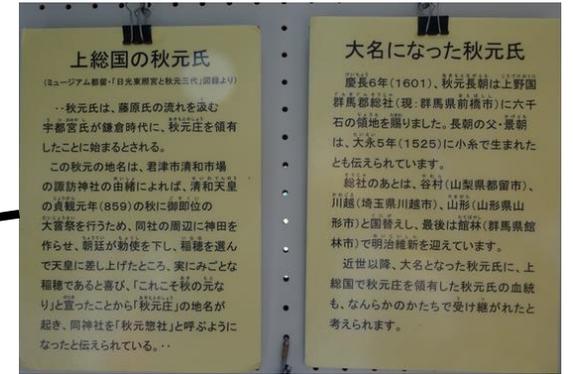


秋元城周囲の岩肌



訪問地② 小糸川と清和公民館

小糸城址（秋元城址）の説明・展示コーナーには、秋元氏と城址に関する資料と城址調査によって発掘された出土資料の展示がある。



写真は瀬戸・美濃灰釉皿と景德鎮窯系の染付皿
共に16世紀に作られたと鑑定されている

訪問地③ 八幡神社

秋元氏の守り神であり、城内にも分祀されている。拝見することはできなかったが、秋元氏の名の書かれた棟札があるということである。

小糸川を小糸城を守る堀と考えれば、城から突き出た曲輪の中に祀られている。



拝殿入り口には「八幡神社」の扁額と共に、「西栗倉公会堂」の看板も掛けられ、地域の集会所として使用されていることがうかがわれる。

余話 消えた秋元小学校！

令和2年（2020）4月1日より「秋元小学校」が「三島小学校」と統合して、「清和小学校」となっていました...

三島小・秋元小統合校 応募結果一覧

校名決定一覧表

統合年度	現在の学校名	新学校名（読み仮名）	使用校舎
H31	小糸中学校、清和中学校	周東（すとう）中学校	小糸中学校
H32	秋元小学校、三島小学校	清和（せいわ）小学校	清和中学校
H33	中小学校、小糸小学校	小糸（こいと）小学校	中小学校



新校名	読み仮名	理由
清和小学校	せいわしょうがっこう	<ul style="list-style-type: none"> ●校歌の共通の歌詞 ●清らかな心で、和やかな心で、学びあい共に育ってもらいたい ●ふるさと「清和」に誇りを持ち、生まれ育った「清和」を愛し、夢や希望を持ちながら、地域とともに心豊かに輝ける学校になることを願う ●旧清和村の村域であり、清和地区で唯一の小学校であるため ●清和という名前を残したい ●清和という名前が昔からずっと好き ●自然がとても豊かで緑の鮮やかさと水の清らかさを連想させる。 ●子ども達が伸び伸びと学校生活を送って清和を愛してくれるよう願う ●清和という地区に地域の方が愛着を持っているから ●清和源氏という地域に伝わる話が学校名から想起できる ●一番親しみやすい名前だから ●清和保育園と並んで一体感も出来るから
秋元小学校	あきもとしょうがっこう	●所在地が秋元地区にあるため

訪問地④ 秋元城（小糸城）

秋元城は小糸城とも呼ばれ、戦国時代の山城である。里見氏の家臣であった秋元義正によって築城された。北条氏の上総侵攻により、義正の子の義久が討ち死にして廃城となったが、後に里見氏が上総侵攻の拠点として使用したと伝えられる。（その後に廃城） ※城についての詳しい説明は手元資料②参照



「小糸城々址」の碑
村長 川俣義郎
小糸城ハ嘉禄年間（西暦1225－6年）、北条泰時カ
執権ノ時カラ戦国時代ヲ経テ徳川時代ノ初期マデ、秋
元氏ノ居城デアッタト伝エラレ、コノ地ハ秋元庄 後ニ
秋元村ト称セラレタ
右ノ史実ヲ伝エルタメ、君津郡清和村市場地区住民相謀ッ
テ、城址ニコノ碑ヲ建立スル
昭和三十六年九月

文並二書 秋元順朝

訪問地④ 秋元城（小糸城）



秋元城跡示す標識と説明版。
その後ろの白い土が見えるところからが秋元城址である。
なお、城壁に開けられた穴は後世のもの。



城址の入口であるが、ここから急峻な登り道が続く。



少し上ったところにある平坦な広場で根古屋と呼ばれており、家臣の住居があったと考えられている。

訪問地④ 秋元城（小糸城）

歩きやすい階段や手すり代わりにのロープなどに助けられて登りました。



はっきり残る虎口



山の上で最も広い「千畳」。主郭部は斜め左方向。



訪問地⑤ 上諏訪神社・下諏訪神社

秋元氏の祈願所であり、向かい合う地に2つの社がある。秋元氏が秋元郷37ヶ村の惣社（鎮守の神社）としたと伝わる。この地域での秋元氏の活動を偲ばせる、あるいは江戸時代の秋元氏が秋元荘を故地と考えていたことを示す棟札が残されている。



上諏訪神社



下諏訪神社



上諏訪神社の鳥居・玉垣建設の碑
篆額は秋元春朝の書で「醇俗竭誠」（じゅんぞくけっせい）
「純朴であり、誠を尽くす」というような意味か？

余話 諏訪神社の例大祭

例大祭（8月第4日曜日）

- ・ 幟旗の奉納
- ・ 山車・神輿・子供神輿によるお囃子
- ・ 神楽獅子舞奉納

「幟旗の奉納」は諏訪大社の御柱祭りを彷彿とさせる勇壮な行事。

（ビデオをご覧ください。）



訪問地⑥ 妙喜寺（曹洞宗）

秋元氏の菩提寺の一つであり、永正5年（1508）秋元善政開創とされ、慶安2年（1649）徳川家光より寺領十石八斗が寄進された。寺内に秋元氏の墓（五輪塔三基）があり、文化年中（1804～1817）に館林城主秋元氏が建てたものと言われている。（妙喜寺にある説明版より）



妙喜寺（現在は無住）



秋元氏の墓



関伽入れにある秋元家の家紋



文久3年の碑

秋元家家臣が志朝公の名代として天南寺、妙喜寺、諏訪神社等を訪問したという記録がある。文久3年（1863）の碑には「秋元家古墳之地」とある。（天南寺にも同じ石碑がある。）

余話 幕末・館林藩秋元家の「安政の改革」

館林藩の財政再建

- 嘉永元年（1848）当時、**20万両余の負債**を抱え、**毎年5万両余に及ぶ収入不足**の状態
さらに、天災による農村の荒廃⇒藩収入の減少、治安の維持・回復⇒藩支出の増加 の恐れあり
- ➡ 安政3年（1856）より改革を実施（推進役：中老 岡谷瑳磨介（おかのやさまのすけ））
 - ➡ 「財政改革」、「殖産興業」、「文武の奨励」、「軍備、軍制の強化」
 - ➡ 藩債20万両の借財は消え、**非常備金2万両**を蓄える

幕末・館林藩の主な活動

文久元年（1861）	麻布善福寺・アメリカ公使館の警備（～文久2年）
文久3年（1863）	家臣を秋元荘に派遣し、旧跡の保存に当たらせる
元治元年（1864）	雄略天皇陵修復
同年より	尊王攘夷運動や一揆の鎮圧（筑波山、出流山、武州世直し一揆）
慶応4年（1868）	新政府に恭順。3月、東山道鎮撫総督に金2万両と大砲2門を献納
同年	4月、戊辰戦争に出兵。（最後の帰還は明治2年（1869）2月

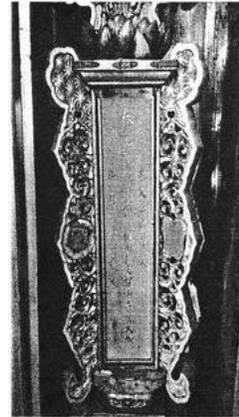
「安政の改革」によりこれらの活動が可能となった！

訪問地⑦ 天南寺（曹洞宗）

当寺も秋元氏の菩提寺であり、寛正元年（1460）秋元一政が祈願所とし、文明2年（1470）堂宇を建立したとされる。堂内に秋元氏の位牌が、境内には秋元義政夫妻の墓（五輪塔）がある。墓には「文化5年戊辰歳」（1808）10月吉日再建とある。



天南寺・本堂



秋元喬房位牌



秋元喬知位牌



秋元兼義・義政位牌



秋元義豊・義則位牌



秋元義政夫妻の墓

訪問した当日は本堂に上げて頂き、秋元氏の位牌を直接拝見することができた。
（位牌の写真は『郡内研究 29号』（都留市郷土研究会）より）

最後に

- 秋元荘の秋元氏は、里見氏と縁戚関係を持ったり、北条氏の上総侵攻後には北条氏に属して里見氏と戦うなど、戦国時代の混乱の中でも活発な活動をうかがう史料が存在している。現存の史料や史跡群も秋元氏発祥の地というのに相応しいものである。
- 江戸時代の大名・秋元氏と君津の秋元氏の結びつきを示す確かな史料はないが、秋元荘を秋元氏発祥の地ととらえていることが、その行動からわかる。家伝のような文書は消失したとしても、秋元家の中での言い伝えのようなものがあつたのかもしれない。
(上野国から安房国に移動したと伝えられる里見氏にも、双方を繋げる明確な史料はない。)

最後に

- 君津市は「秋元歴史の道マップ」や「戦国の城 秋元城跡」のようなパンフレットを作るなど、郷土の歴史を伝えるものとして、また観光資源として史跡を大切に守っておられる。我々もその姿勢を見習いたい。史跡はおおむね（天南寺を除く）徒歩で回れる範囲に点在し、館林からの日帰り見学も可能。
- 今回の訪問では、君津市清和公民館・君津市経済部観光課の皆様にご提供などで大変お世話になりました。また、天南寺様には本堂にて秋元氏関係の位牌を拝観させて頂きました。暖かいお心遣いに改めて感謝申し上げます。

秋元家発祥の地・秋元荘

ご清聴ありがとうございました